

れたことを示しているといえる。なお、ここでの建物跡の時期は、埋土中への土器の投棄を考慮して、建物跡の使用時期ではなく、廃絶時期を主に考えている。

第3節 有孔円板と高環脚部転用羽口について

(1) 有孔円板と滑石製管玉について

平峰遺跡における有孔円板と滑石製管玉の様相

平峰遺跡における有孔円板と滑石製管玉は、有孔円板が33号・36号・39号竪穴建物跡、滑石製管玉が41号竪穴建物跡から出土している。管玉はこのほか頁岩製のものが42号竪穴建物跡から出土している。また、滑石製および蛇紋岩製白玉が36号竪穴建物跡の炉内埋土から出土している。時期的関係は、33号（緑色凝灰岩製有孔円板）・42号（頁岩製管玉）→39号（滑石製管玉）・（あるいは→）36号建物（頁岩製有孔円板）→41号（滑石製管玉）となり、同一製品で同一時期のものはない。なお建物の大きさでみると、中・大型の建物から有孔円板が、小型の建物から管玉が出土しており、区別がみられる。

滑石製品の白玉は宮崎県内の墳墓などでも散見されるが、有孔円板は管見の限り県内では初めての例であり、滑石製の管玉は宮崎市山崎上ノ原第2遺跡例に続いて2例目となる。九州地域におけるいわゆる滑石製模造品は、「筑後川以北、福岡県域に分布が偏っている」（福本2005：144）ことが指摘されている。筑後川以南では出土数・遺跡は減少し、鹿児島や宮崎などの九州南部地域ではいわゆる滑石製模造品が少なく、2005年埋蔵文化財研究会による集成資料（第54回埋蔵文化財研究会事務局2005）段階では有孔円板は両県では確認されていない。

以下では、有孔円板と滑石製管玉について若干の検討を行うが、副葬品は検討対象外とする。墳墓に納められる副葬品としての秩序と集落内で使用に際して規制される秩序が同一であるかは疑問であるため、少なくとも集落という同じ基準で比較できる集落出土資料に对象を限る。また、出土数が少ないと共通点がみられる熊本県・大分県以南を対象とする。

九州中・南部地域における有孔円板と滑石製管玉出土遺跡と遺構

九州中・南部地域における有孔円板や滑石製管玉が出土している遺跡は、管見の限り表7および図79のように15遺跡であり、依然として少ない⁽⁴⁾。これらの遺跡を時期的にみると、大分県都野原田遺跡を除くと、そのほとんどは、5世紀から6世紀頃の遺跡である。地域的には、九州中部地域では平野や盆地・河川流域単位にまとまる傾向にあるが、南部地域では散在している。内容的にみると、異質であるのは熊本県域の遺跡である。玉名市上小田宮の前遺跡（熊本県教育位階2010）や両迫間日渡遺跡（玉名市教育委員会2009）では多量のいわゆる祭祀遺物が出土しており、詳細な内容は不明であるが、熊本市上高橋高田遺跡（熊本市教育委員会2005）においても多量の祭祀遺物とともに有孔円板が出土したとされる。海浜部に近い位置と、遺物の量・出土状況は、青銅器や鉄製品が欠落する点からランク的な開きはあるものの、沖の島などにみるような海上交通に伴う上位クラスの祭祀の一種であると考えられる。熊本県域以外では、大分県日田市荻鶴遺跡において祭祀遺構とされる遺構から出土している以外は、鹿児島県池之頭遺跡の1例を除き、すべて竪穴建物跡からの出土である。また、有孔円板と滑石製管玉の出土状況をみると、有孔円板と管玉の両者が出土している遺跡はほとんどない。このような中で、1遺跡の中で有孔円板が3点出土している点や、

表7 九州中・南部地域における有孔円板・滑石製管玉出土遺構一覧

所在地	遺跡名	滑石製品出土遺構	時期	臼 玉	管 玉	有孔 円板	その他	その他遺物	備考	文献
大分県										
大分市	下郡遺跡群-	030SH006 (堅穴建物)	5C前	-	-	2	勾1	ミナマア土器,土製勾玉 2,蛇紋岩製石斧1,硬 玉製管玉1	他に蛇紋岩製石斧1,石 鏡1,勾玉1点は未成品,	大分市教委2009
大分市	下郡遺跡群-	030SH005 (堅穴建物)	不明	1	-	-	-	砥石1		
		SD9(溝)	4C	-	-	-	勾1	-		
		SH6(堅穴建物)	5C後	11	-	-	-	結晶片岩製砥石1		
		SH4(堅穴建物)	5C末	-	-	-	紡1	-		
大分市	植田市遺跡	SH8(堅穴建物)	5C末	3	-	-	-	ミナマア土器		
大分市	植田市遺跡	SH23(堅穴建物)	5C末	2	-	-	紡1	ミナマア土器		大分県教委1994
		SH9(堅穴建物)	5C末-6C 初	3	-	-	-	材質不明(赤褐色)小 玉15		
		SR1(流路)	5C- 7C前	-	-	-	紡3	ミナマア土器,結晶片岩 製垂飾品1,砂岩製砥 石1		
		3号住居跡	5C前	-	-	-	-	-		
大分市	園遺跡	1号住居跡	5C末	18	-	-	劍形?2, 不明1	ミナマア土器,刀子1		大分市教委1992
		2号住居跡	6C中	1	-	1	-	-	柱穴の中から円板出土	
		4号住居跡	不明	1	-	-	-	-		
日田市	萩鶴遺跡	5号溝状遺構	5C前	-	-	2	-	ミナマア土器,鉄錠,鉄片		日田市教委1995
日田市	田ノ坪遺跡	B地区 8号堅穴住居	6C前	-	-	-	-	有孔円板1(緑泥片 岩)		日田市教委2009
		271号堅穴 (堅穴建物跡)	弥生後期 後葉-終末	-	-	-	紡1	鉄器3		
竹田市	郡野原田遺跡	51号堅穴(堅穴建物跡)	4C前	-	1	-	-	-		久住町教委・ 大分県教委2001
		37号堅穴(堅穴建物跡)	4C中	-	-	-	勾1	鉄器4,土器片加工品 29点		
熊本県										
玉名市	両迫間日渡遺跡	S18(祭祀遺構)	5C前	70+	2	2	勾1	ミナマア土器,土製勾玉 1	片岩製含	玉名市教委2009
玉名市	両迫間日渡遺跡	S14(祭祀遺構)	5C後	123+	4	14	劍形8,勾 2,玉4	ミナマア土器,土製模造 鏡2	片岩製含	玉名市教委2009
玉名市	上小田 宮の前遺跡	8・9区 自然流路	5C	28	1	55	劍形40, 紡1	ミナマア土器,土製模造 鏡14,土製勾玉17,土 製丸玉51,珊瑚?,羽口, 碧玉製管玉,2ガラス小 玉3,木製品	縄文から中世までの遺 物を含む	熊本県教委2010
玉名市	柳町遺跡	調査II区排水用側溝	?	-	1	-	-	-	両迫間日渡遺跡に隣接	熊本県教委2001
熊本市	上高橋高田遺跡	包含層 (P-13"リット"Ⅲ層)	4C後-5C	-	-	○	-	-	遺跡内から多数の「祭 祀遺物」出土,ただし詳 細な内容は不明	熊本市教委1992
宮崎県										
宮崎市	上野原第2遺跡	SA1(堅穴建物跡)	6C-7C	○	1	-	勾1	羽口,ガラス小玉,鐵 造片,粒状滓,鐵滓, (鐵鎌,刀子)	鐵鎌,刀子は表では「包 含層」出土	宮崎県埋文2003
鹿児島県										
南九州市 (旧川辺町)	古市遺跡	5号堅穴住居跡	6C前	-	-	-	-	有孔円板(材質不明)	報告書では「柔らかい石 材を使用した石製品」と 記載	鹿児島県埋文2005
日置市 (旧東市来町)	池之頭遺跡	包含層	5C	-	-	-	-	粘板岩製有孔円板?1	報告書では「粘板岩製 の石製品」と記載	鹿児島県埋文2002
さつま町 (旧薩摩町)	向井原遺跡	6号堅穴住居跡	6C前?	-	-	1	-	-	報告書では「石製品 (垂飾)」と記載	鹿児島県埋文2010
指宿市	橋牟礼川遺跡	SUB.M.No.26-27レバ 9層	4C後-5C前	-	-	1	-	軽石製品	報告書では「円板状石 製模造品」と記載	指宿市教委1992

※遺構名は基本的に報告書記載名で統一し、括弧内に遺構の種別などを補足している。

同一遺跡内で出土することが少ない滑石製管玉が出土している点に平峰遺跡の特徴をみることができる。ところで、荻鶴遺跡は高坏脚部を転用した羽口と鉄鋌や鉄器を用いた祭祀で有名な遺跡であるが、次節で触れるように、高坏脚部転用羽口は九州南部、とくにえびの地域において多くみられる遺物であり、その関係性は注目される。

平峰遺跡における有孔円板と滑石製管玉の位置づけ

有孔円板や滑石製管玉は、九州中・南部地域にておいて出土数は少なく1遺跡1点程度であり、有孔円板と滑石製の管玉が同一遺跡内から出土することはほとんどない。熊本県の祭祀に関連する例を除くと、平峰遺跡の状況はやや異質である。在地の一集落というよりは、外の地域とのつながりをうかがわせる。

(2) 高坏脚部転用羽口と鍛冶素材について

平峰遺跡および宮崎県内における鍛冶の様相

平峰遺跡では1次から3次調査を通して、鉄滓や高坏の脚部転用羽口といった鍛冶関連の遺物が検出されている。しかし、羽口が出土する建物跡内で鍛冶炉と考えられる強く被熱した炉跡の検出は少ない。34号竪穴建物跡でみたように、埋土中においても小さい鍛造剥片・粒状滓には気づくため、鍛冶遺構を見逃している可能性は少ないと考えられる。

1次・2次調査(宮崎県埋蔵文化財センター2012)の遺物に関連した冶金学的分析によれば、分析を行った平峰遺跡出土の椀形鍛冶滓はすべて鍛錬鍛冶滓とされている。また、粒状滓のうち1点は「ねずみ鑄鉄」であり、鉄塊系遺物では脱炭した際のガス抜け孔が確認されており、平峰遺跡に

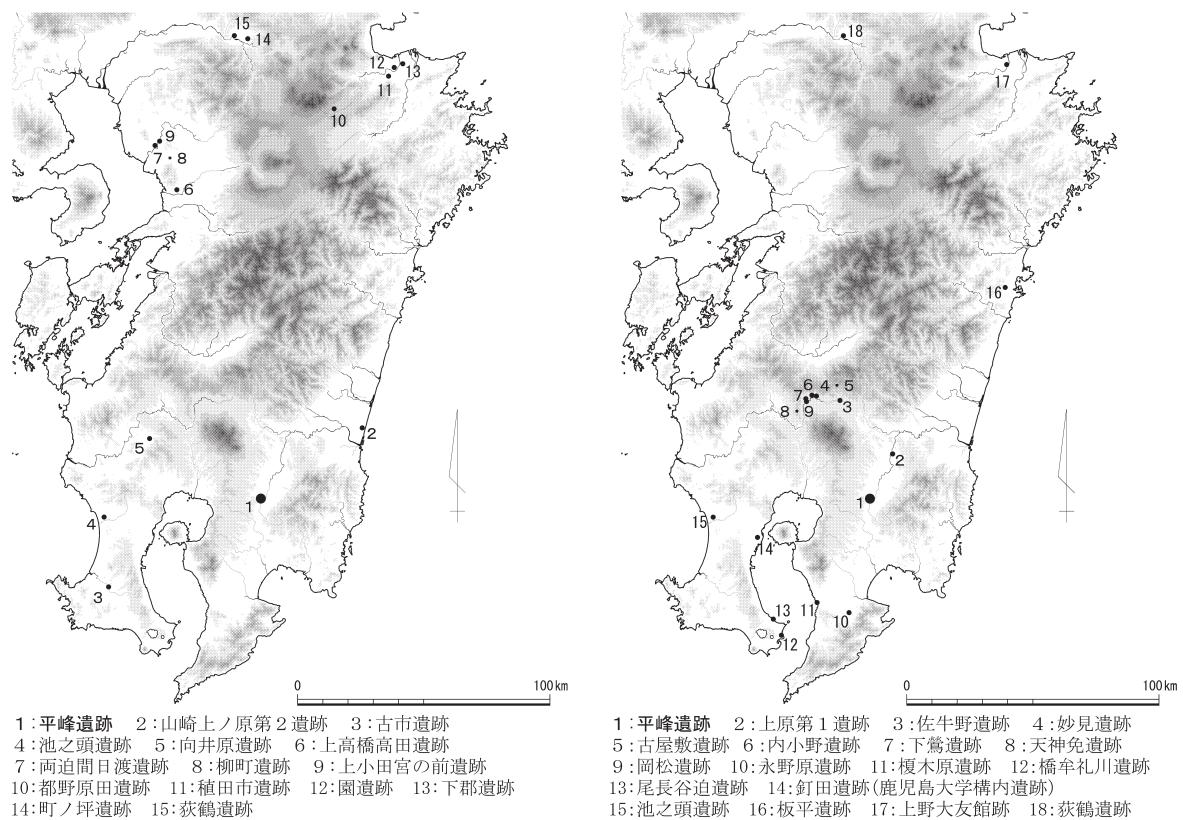


図79 九州中・南部地域における有孔円板・滑石製管玉と高坏脚転用羽口出土遺跡の分布

表8 宮崎県内における弥生時代～古墳時代の羽口・鉄滓出土遺構一覧

所在地	遺跡名	遺構名	時期	鍛冶関係遺物	そのほか	備考	文献
新富町	向原第1遺跡	SA1(竪穴建物跡)	弥生後期後半	鍛造剥片?, 粒状滓?, 鉄片, 台石(金床石?)	土器, 砥石, 鉄鎌	焼失家屋	宮崎県埋文2006
川南町	尾花A遺跡	4-S13(竪穴建物跡)	4C前	鑿, 鉄片, 台石(金床石?)	土器, 砥石, 敲石, 磨石, 小玉, 鉄鎌, ヤリガンナ(打製石斧, 石庖丁)	焼失家屋?	宮崎県埋文2011a
日向市	板平遺跡	4次 SA1(竪穴建物跡)	5C前	高坏転用羽口, 鉄滓	敲石, 石皿(打製石斧)		宮崎県埋文2011b
新富町	上藪遺跡	F地区 5号住居址	5C中	羽口, 鉄滓	土器, 須恵器, 敲石, 磨石, 砥石, 鉄鎌, 鉄製品		新富町教委1995
		E地区 48号住居	6C	鉄滓	土器, 鉄器	詳述なし	新富町教委1996
		E地区 55号住居	6C	鉄滓	鉄鎌	詳述なし	
宮崎市	北中遺跡	竪穴状遺構	6C	鉄滓	土器		宮崎市教委1999
宮崎市	山崎上ノ原第2遺跡	SA1(竪穴建物)	6C-7C	羽口, 鍛造剥片, 粒状滓, 鉄滓	土器, 須恵器, 滑石勾玉, 滑石管玉, 滑石小玉, ガラス小玉(鉄鎌, 刀子)	鉄鎌, 刀子は表では「包含層」出土	宮崎県埋文2003

において鉄を脱炭して脱炭鋼をつくる「下げ」の行程が行われたことが想定されている。

より視点を広げて宮崎県内をみてみると、近年弥生時代から古墳時代にかけての鍛冶に関連する遺跡の調査事例が増えている。弥生時代に属する鍛冶関連の遺跡は少ないが、弥生時代から古墳時代にかけての大規模な集落である川南町尾花A遺跡において鍛冶関連遺物が確認されている。また、これまであまり紹介されていないが、新富町向原第1遺跡において鍛冶工房と考えられる弥生時代後期後半頃の竪穴建物跡(SA1)がある⁽⁵⁾。

九州中・南部地域における高坏転用羽口と鍛冶の様相

野島永氏によれば、古墳時代における高坏の脚部転用羽口は、古墳時代中期の5世紀にみられ、さらにその地域は東北地方と九州南部にみられるが、特に東北地方に多い(野島1997)とされている。九州内における高坏転用羽口は、管見の限り、表9にみるように18遺跡で出土している⁽⁶⁾。宮崎・鹿児島の九州南部を中心として分布しているが、大分県でもわずかながら確認することができた。九州南部においては、特にえびの市域において出土遺構数が突出している。また、鹿児島県内における転用羽口は、包含層から出土していることが多いのに対して、宮崎県内の遺跡では遺構に伴うものが多い。遺構出土のものは竪穴建物跡からの出土が多いが、竪穴建物跡に鍛冶炉と思われる遺構が確認されている例は少ない。平峰遺跡1次・2次調査の冶金学的分析では、土器が鍛冶炉の炉壁として使用された可能性が指摘されており、床面にあまり痕跡が残らないような構造の炉であったのかもしれない。

時期的な状況をみると、大分県内の遺跡はいずれも5世紀前半で、九州南部では5世紀前半～6世紀前半頃までみられる。えびの市の遺跡が5世紀代のものが多いのに比べると、平峰遺跡はやや新しい時期となる。

鍛冶素材と鉄鋤について

鍛冶の素材については明らかでないが、平峰遺跡1次・2次調査の報告では、鉄を脱炭処理して鋼として鉄器を生産している過程が想定されている。鍛冶製品としては、えびの市妙見遺跡(宮崎県教育委員会1994)のSA2(竪穴建物跡)から鍛造鉄斧が出土しており、当時流通していた鍛造鉄斧やその破片などが、素材となった可能性がある。その一方、3次調査では43号竪穴建物跡の検出面付近の埋土ではあるが、投棄されたと考えられる多量の土器とともに小型鉄鋤が出土してお

表9 九州中・南部地域における高坏脚部転用羽口出土遺構一覧

所在地	遺跡名	遺構名	鍛冶炉	時期	転用羽口数	鍛冶関係遺物	そのほか	備考	文献
大分県									
大分市	上野大友館 (上原館)跡	SK004 (土坑)	-	5C前	1	-	-	土坑自体は8C 代,SK004の混入 か	大分市教委2000
		SX003 (性格不明遺構)	-	5C前	1	-	土器		
日田市	荻鶴遺跡	豊穴(鍛冶)遺構	○	5C前	8	鉄滓(鍛造剥片, 粒状滓,楕形滓,ガ ラス質滓),金床石, 砥石	土器	日田市教委1995	
		5号溝状遺構 (祭祀遺構)	-	5C前	-	鉄鋤,鉄片	土器,ミニチュア土 器		
宮崎県									
日向市	板平遺跡(4次)	SA1 (豊穴建物跡)	-	5C中	5	鉄滓,金床石	土器,打製石斧,敲 石,砥石,石皿	宮崎県埋文2011b	
えびの市	内小野遺跡	SA-24 (豊穴建物跡)	-	5C前	1	-	台石,佩帶状砥石 (打製石鎌,磨製 石鎌,石匙,磨製石 斧,石核,剥片)		
		SA-65 (豊穴建物跡)	-	5C前?	2	-	台石1		
		SA-86 (豊穴建物跡)	-	5C前	1	-	(石錐,石核)		
		SA-97 (豊穴建物跡)	-	5C前	1	-	土器		
		SA-142 (豊穴建物跡)	-	5C前	1	-	(打製石鎌2,石匙 2,块状耳飾1,剥 片)	図では中央付近 に土坑状の掘り込 みあり	えびの市教委2000a
		SK-76(土坑)	-	5C前	2	鉄滓付着壺	軽石加工品1	壺は報告書では 「珊瑚?」と記載	
		SA-126 (豊穴建物跡)	-	5C?	2	-	(打製石鎌)	高坏の割合高い	
えびの市	佐牛野遺跡	SA-130 (豊穴建物跡)	-	5C後- 6C前?	1	鉄鋤?	(石匙,スレバ?)	「鉄鋤」は報告書 では「不明鐵器」 と記載	
		包含層	-	-	2				
		SA2 (豊穴建物跡)	-	6C後?	1	-	土器	えびの市教委2000b	
		IV区 SA-46 (豊穴建物跡)	-	5C前	「数点」	-	磨石兼敲石,砥石, 台石(打製石鎌,地床炉?あり 石鎌未製品)		
		IV区 SA-41 (豊穴建物跡)	-	6C前	「数点」	-	土器,砥石	地床炉?あり	
えびの市	古屋敷遺跡	IV区 SA-45 (豊穴建物跡)	-	6C	2	-	礫器,台石	地床炉?あり,床面 2枚	
		VII区 SA-62 (豊穴建物跡)	-	6C?	1	-	台石1(打製石鎌, 局部磨製石斧,石 鎌未製品)	えびの市教委2005	
		VII区 SA-66 (豊穴建物跡)	-	6C?	1	-	砥石1,台石1(細 石刃)	地床炉?あり	
		VII区 SD35 (溝状遺構)	-	-	1	-	(各時期の遺物を 含む)		
		VII区(371) (包含層?)	-	-	1	-	(各時期の遺物を 含む)	-	
えびの市	天神免遺跡	SA-110 1層 (豊穴建物跡)	-	5C後	4	金床石2?(1は 報告書では「台石 (鉄床石か)」)	砥石5,台石7(1-2 層にかけて「土器 混和素材か」と思 われる石英斑)	炭・焼土混じりの土 あり	
		SA-123 1層 (豊穴建物跡)	-	5C後	3	鉄滓	土器,土鍤,鉄鎌	地床炉あり	
		SA-118 1層 (豊穴建物跡)	-	5C後?	2	-	土器	地床炉あり	えびの市教委2010
		SA-134 1・2層 (豊穴建物跡)	-	5C後- 6C前	4?	-	土器,須恵器,(磨 製石鎌)	地床炉2基分あり	
		SA-107・108 1層 (豊穴建物跡)	-	5C後- 6C前?	1	-	(両遺構の遺物を 含む)		
		SA-152 1層 (豊穴建物跡)	-	6C後	2	-	土器,須恵器,刀子	地床炉あり	

えびの市	天神免遺跡	SA-84 1層 (竪穴建物跡)	-	7C初	1	-	土器,須恵器,砥石,土器埋設炉 台石,鉄鎌	えびの市教委2010
		SD-124 上・中層 (溝状遺構)	-	9C後?	1	-	(各時期の遺物を 含む)	
えびの市	岡松遺跡	SZ-01 3・4層 (自然流路)	-	5C-6C?	3	-	(各時期の遺物を 含む)	えびの市教委2010
		SX-01 4b層 (凹地)	-	-	1	-	(各時期の遺物を 含む)	
えびの市	下鶴遺跡	IV区南拡張区 Ⅲb層	-	弥生- 古墳	1	-	(各時期の遺物を 含む)	えびの市教委2011
えびの市	妙見遺跡	SA2 (竪穴建物跡)	-	6C前?	1	-	土器,铸造鉄斧1 铸造鉄斧は二次 床面からの出土	宮崎県教委1994
都城市 (旧高城町)	上原第1遺跡	B区 12号竪穴住居跡	-	5C後 -6C前	4	-	-	高城町教委2004
鹿児島県								
肝付町 (旧高山町)	永野原遺跡	包含層IV層	-	-	3	-	(各時期の遺物が 出土)	(財)元興寺編2000
鹿屋市	桜木原遺跡	包含層	-	-	1	-	(各時期の遺物が 出土)	鹿児島県教委1987
指宿市	橋牟礼川遺跡	5トレンチ	-	-	1	-	「ふいご羽口の未 製品,高坏脚部内 面に焼成後の穿孔 を施す過程」,「未 使用」品	指宿市教委1993
指宿市	尾長谷迫遺跡	1号住居跡	○	6C	14	鉄滓,台石(鉄床 石),砥石	磨製石斧1,打製石 斧1,磨石?1,凝灰岩 加工品2,軽石加工 品3,	指宿市教委1986
鹿児島市	鹿児島大学構内遺跡	包含層4層	-	6C?	2	-	(各時期の遺物を 含む)	鹿児島大埋文調2011
日置市 (旧東市来町)	池之頭遺跡	包含層	-	5C	2	-	(各時期の遺物が 出土)	鹿児島県埋文2002

※遺構名は基本的に報告書記載名で統一し、括弧内に遺構の種別などを補足している。

り、鉄鋤も鍛冶素材としての可能性が高い。鉄鋤は東潮氏の「細型鉄鋤B」類（東1999）に該当する。同様な鉄鋤は、荻鶴遺跡（日田市教育委員会1995）の祭祀遺構からも出土しているほか、えびの市内小野遺跡（えびの市教育委員会2000a）のSA-130（竪穴建物跡）内からも小型の鉄鋤と考えられる鉄器片が出土している。東氏によれば、集落内から出土する鉄鋤は鍛冶素材とされている。また、野島氏も複数ある鉄鋤の機能の中で、畿内や中国地方の一部を除く列島各地では、鍛冶の素材として受け入れられた可能性を想定している（野島1997）。さらに、野島氏は同時に、畿内地域において铸造鉄斧を原料とする指向性を指摘しており、铸造鉄斧自体は出土していないが、平峰遺跡の状況はこれらの指摘によく似ている。

平峰遺跡における転用羽口と鉄鋤の位置づけ

列島でみられる転用羽口は5世紀代に限られ、同じ時期に見つかる鉄鋤は、畿内政権からの再分配によってもたらされたが、このような流通構造は朝鮮半島の状勢の変化にともなって5世紀後半～6世紀に変容し、鉄鋤が減少するとともに、転用羽口も消滅していくとされる（野島1997）。平峰遺跡はちょうどこの変革の時期に位置し、一部専用羽口も出土しており、その状況を反映している可能性がある。

註

- (1) 1次・2次調査分については、鍛冶炉がなかったというよりも、詳細な内容が明らかでないために不明である部分が多分にある。
- (2) このほか、坏底充填部（柱部充填部）のみの破片も出土している。なお、「脚柱充填部」ではなく「坏底充填部」としたのは、本遺跡においては、高坏を作る際に、坏の底部を最後に埋めているものが多く、脚柱を充填した後に坏を作っているものがほぼみられないためである。
- (3) 報告書中では、「平底で外面に格子目タタキが施される、朝鮮半島系の軟質土器」（日田市教育委員会2009、26頁）で、鉢として報告されている。

- (4) 上小田宮の前遺跡の報告書（熊本県教育委員会2010）によれば、熊本県内ではほかに熊本市（旧植木町）石川遺跡、菊池市平町遺跡で有孔円板が出土している。ただし、文献等が不明で確認できなかったため、本報告では除外している。
- (5) 向原第1遺跡の報告書では鍛冶工房という報告は行われていない。フローテーションによって鍛造剥片などを回収しているが、本来の目的が炭化種子・果実の回収であり、鍛造剥片などの回収ではないため、報告書では「炭化種子や鎧状のものも含めた鉄片はおおむね住居全域から出土している」（宮崎県埋蔵文化財センター2006:40）、とのみ記載してある。
- (6) このほか、池之頭遺跡の報告書によれば、鹿児島県吹上町の大園遺跡からも、高坏脚部を転用した羽口が出土しているが、文献が入手なかったため確認していないため、除外している。

引用・参考文献

- 東 潮 1999 「第5章 鉄鉢の基礎的考察」 『古代東アジアの鉄と倭』、渓水社、147-283頁
- 青木 保 2006a 『儀礼の象徴性』、岩波書店
- 青木 保 2006b 「儀礼」 『社会学事典』（縮刷版）、弘文堂、220-221頁
- 青木 保 2006c 「祭り」 『文化人類学事典』（縮刷版）、弘文堂、723-724頁
- 今村仁司・今村真介 2007 『儀礼のオントロギー』、講談社
- 三宮昌弘 1989 「初期須恵器製作集団と韓式系土器」 『韓式系土器研究』Ⅱ、韓式系土器研究、1-11頁
- 第54回埋蔵文化財研究集会事務局編 2005 『第54回埋蔵文化財研究集会 古墳時代の滑石製品－その生産と消費－発表要旨・資料集』、第54回埋蔵文化財研究集会事務局
- 中村直子 1987 「成川式土器再考」 『鹿大考古』第6号 鹿児島大学法文学部考古学研究室、57-76頁
- 中村直子 2002 「薩摩・大隅」 『第5回 九州前方後円墳研究会 古墳時代中・後期の土師器－その編年と地域性－ 発表要旨集』 九集前方後円墳研究会、175-200頁
- 野島 永 1997 「弥生・古墳時代の鉄器生産の一様相」 『たたら研究』第38号 たたら研究会、1-34頁
- 福本 寛 2005 「九州における滑石製模造品の使用状況」 『第54回埋蔵文化財研究集会 古墳時代の滑石製品－その生産と消費－発表要旨・資料集』、第54回埋蔵文化財研究集会事務局、136-156頁
- Moore, Saly F. and Barbara G. Myerhoff 1977 Introduction: secular ritual. Secular ritual. Van Gorcum & Comp. pp.3-24.

引用・参考遺跡報告書

奈良県

奈良県橿原考古学研究所 1981 『新沢千塚古墳』 奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第39冊、奈良県教育委員会

大阪府

大阪府教育委員会 2010 『藤屋北遺跡1』 大阪府埋蔵文化財調査報告2009-3

大阪府教育委員会・大阪文化財センター 1992 『小阪遺跡－近畿自動車道松原海南線および府道松原泉大津線建設に伴う発掘調査報告書』

財団法人 大阪市文化財協会 2004 『難波宮址の研究』 第12

大分県

大分県教育委員会 1994 『植田市遺跡』

大分市教育委員会 1992 『園遺跡』

大分市教育委員会 2000 『上野大友館（上原館）跡』

大分市教育委員会 2009 『下郡遺跡群Ⅶ』 大分市埋蔵文化財発掘調査報告書第92集

久住町教育委員会・大分県教育委員会 2001 『都野原田遺跡』 大分県文化財調査報告書第128輯・久住町文化財調査報告書台10集

日田市教育委員会 1995 『荻鶴遺跡』 日田市埋蔵文化財調査報告書第9集

日田市教育委員会 2009a 『求来里の遺跡Ⅰ』 日田市埋蔵文化財調査報告書第88集

日田市教育委員会 2009b 『求来里の遺跡Ⅱ』 日田市埋蔵文化財調査報告書第89集

熊本県

- 熊本県教育委員会 2001『柳町遺跡Ⅰ』熊本県文化財調査報告書第200集
熊本県教育委員会 2010『上小田宮の前・養寺遺跡』熊本県文化財調査報告書第255集
熊本市教育委員会 2005『上高橋高田遺跡』
玉名市教育委員会 2009『両迫間日渡遺跡』玉名市文化財調査報告書第19集

宮崎県

- えびの市教育委員会 2000a『内小野遺跡』えびの市埋蔵文化財調査報告書第24集
えびの市教育委員会 2000b『佐牛野遺跡』えびの市埋蔵文化財調査報告書第27集
えびの市教育委員会 2005『東川北地区遺跡群』えびの市埋蔵文化財調査報告書第41集
えびの市教育委員会 2010『北岡松地区遺跡群』えびの市埋蔵文化財調査報告書第48集
えびの市教育委員会 2011『下鶴遺跡』えびの市埋蔵文化財調査報告書第52集
新富町教育委員会 1995『上蘭遺跡F地区 溜水第2遺跡』新富町文化財調査報告書第18集
新富町教育委員会 1996『上蘭遺跡A・B・C地区（I） 上蘭遺跡E地区（I）』新富町文化財調査報告書第19集
高城町教育委員会 2004『細井地区遺跡群』高城町文化財調査報告書第14集
宮崎県教育委員会 1994『野久首遺跡 平原遺跡 妙見遺跡』九州縦貫自動車道（人吉～えびの間）建設工事にともなう埋蔵文化財調査報告書第2集
宮崎県埋蔵文化財センター 2003『山崎上ノ原第2遺跡 山崎下ノ原第1遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第79集
宮崎県埋蔵文化財センター 2006『向原第1遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第119集
宮崎県埋蔵文化財センター 2011a『尾花A遺跡Ⅱ』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第195集
宮崎県埋蔵文化財センター 2011b『板平遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第199集
宮崎県埋蔵文化財センター 2012『平峰遺跡（1次・2次調査）』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第211集
宮崎市教育委員会 1999『北中遺跡』宮崎市文化財調査報告書第38集

鹿児島県

- 指宿市教育委員会 1986『尾長谷迫遺跡』指宿市埋蔵文化財調査報告書（7）
指宿市教育委員会 1992『橋牟礼川遺跡Ⅲ』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（10）
指宿市教育委員会 1993『橋牟礼川遺跡V』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（12）
鹿児島県教育委員会 1987『榎木原遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（44）
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002『池之頭遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（32）
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2006『古市遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（89）
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2010『尾付野山遺跡 向井原遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（147）
鹿児島大学埋蔵文化財調査室 2001『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 15』
鹿児島大学埋蔵文化財調査室 2011『鹿児島大学構内遺跡 釘田遺跡第一地点（鹿児島大学構内遺跡郡元団地J-4区）』鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書第6集
(財)元興寺文化財研究所編 2000『永野原遺跡』高山町埋蔵文化財発掘調査報告書（7）鹿児島県高山町教育委員会